

■最高値圏での推移が続く日米株式市場

米利下げ観測の高まりから、日米の株式市場は最高値圏での推移が続いています(図表①)。米労働市場の減速を示唆する内容となった8月の雇用統計発表以降、市場の利下げ織り込みが一段と加速したことが背景にあると思われます。

足元の投資環境は、FRB(米連邦準備制度理事会)による利下げへの期待と、米国景気の底堅さをベースとした「ゴールドボックス(適温)相場」と言えそうです。

米アトランタ連銀が公表する経済予測モデルである「GDPNow」によると、第3四半期の実質GDP(国内総生産)の予測値は、10日時点で前期比年率+3.1%を見込むなど、米景気は堅調に推移すると予想されています。

また、米中小企業の景況感を示す「中小企業楽観指数」が、トランプ関税の導入によって事業環境の見通しに対する懸念が強まった4月以降改善してきていることも、米景気の底堅さを示唆していると思われます。足元では景気敏感株の指数であるラッセル2000も上昇してきており、今後中小企業の景況感の回復とともに、同指数が本格的な上昇へと至るかに注目が集まっています(図表②)。

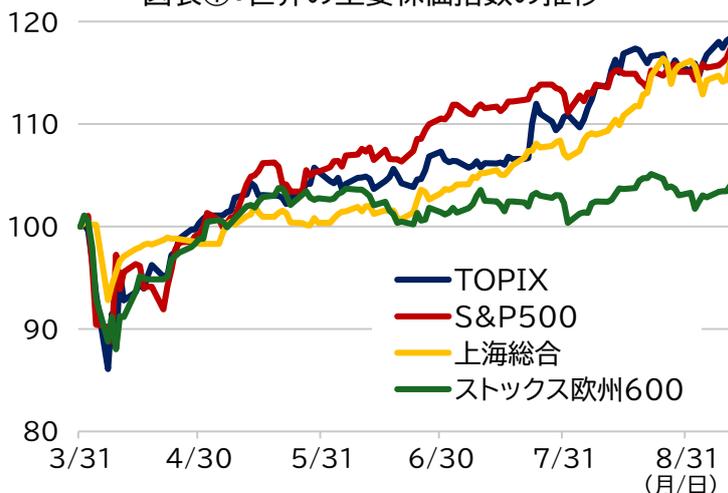
来週16~17日のFOMC(米連邦公開市場委員会)を前に、短期的には神経質な動きも想定されますが、中長期的には米景気に対する期待感が相場の支えになると思われます。

■国内では自民党総裁選に注目が集まる

国内では、7日の石破首相の辞任表明を受けて、次期政権が拡張的な財政政策に傾くとの見方が強まったことも、日本株が大きく上昇した要因と考えられます。

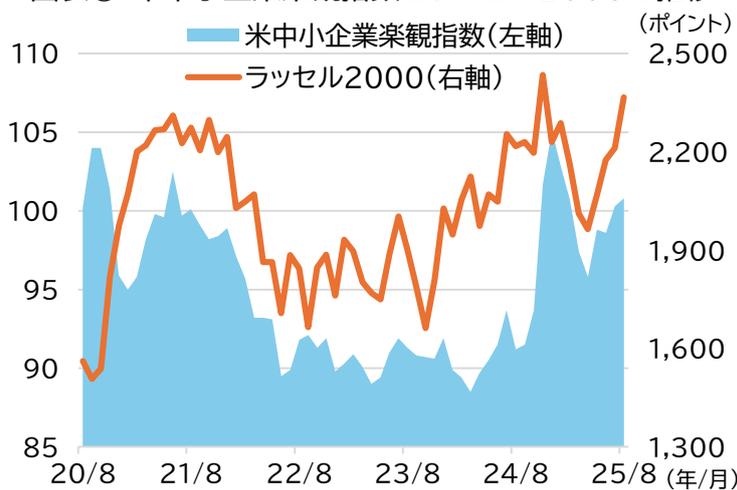
図表③は、直近の自民党総裁選前後における日本株(TOPIX)の騰落率を表したものです。年によってバラツキはあるものの、総じてポジティブな影響があると言えそうです。今後、各候補の財政・金融政策に対するスタンスを見極める必要があると思われますが、「自民党総裁選は買い」との経験則に基づけば、しばらくは株高が見込めそうです。

図表①:世界の主要株価指数の推移



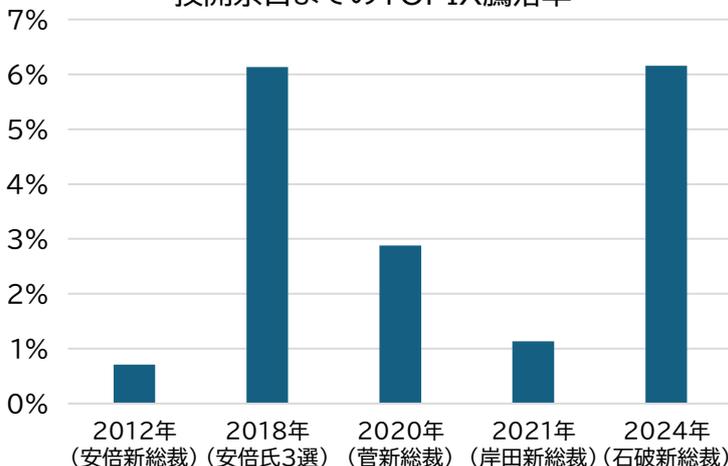
※ 期間は2025年3月末~9月11日、2025年3月末を100として指数化(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

図表②:米中小企業楽観指数とラッセル2000の推移



※ 期間は2020年8月末~2025年8月末(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

図表③:前総裁の辞任・不出馬表明から投開票日までのTOPIX騰落率



※ 安倍氏の無投票再選となった2015年は除く  
 ※ 2018年は安倍氏の任期満了に伴う選挙のため、告示日から投開票日まで(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成